

膜厚計L-373調整かんたんガイド

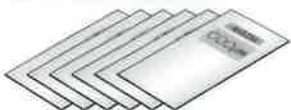
用意するもの

素地



表面にメッキや塗装などの被膜がかかっていない、測定対象と同じ材料・形状のものを極力ご用意ください。

標準板(付属品)



1枚ごとに厚さが異なる6枚セットです(LH-373は5枚)。各板に、厚さとシリアルナンバーが記載されています。

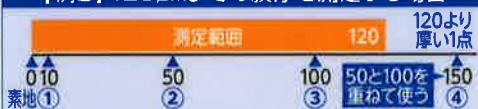
付属標準板：10・50・100・500・1000・(1500/LE・LZのみ)μm

調整は、基本的には素地と標準板4枚を合わせた5点の厚さを測定することで行います。つまり、付属の標準板すべては使わず、測定範囲に適した4枚を選びます。また、4枚のうち1枚は、想定する測定範囲の上限より厚いものを選びます。測定範囲に下限がある場合は、さらに薄いものを選びます。

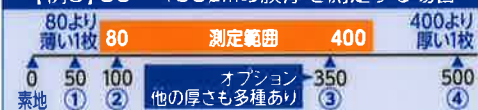
【例1】800μmまでの膜厚を測定する場合



【例2】120μmまでの膜厚を測定する場合



【例3】80～400μmの膜厚を測定する場合



当ガイドでは、膜厚計の調整(キャリブレーション)方法を簡易的にご説明します。詳細は、取扱説明書P.24「8.調整(キャリブレーション)」をご参照ください。

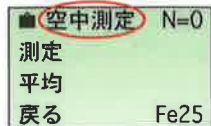
1.素地補正



2 ↑[↑][↓]キーで「素地補正」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押す。

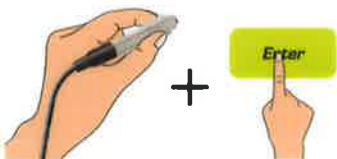


素地補正開始。「空中測定」と表示される。



初期画面で[→]キーを2回押し「設定」にカーソルを合わせ、[Enter]キーを押す。

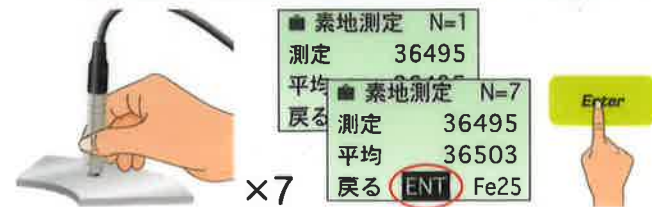
3 プローブ先端を空中に向けたまま[Enter]キーを押す。



4 自動的に7回測定され、「ENT」と表示される。[Enter]キーを押す。



5 「素地測定」と表示される。素地を7回測定し、「ENT」表示が出たら[Enter]キー。測定画面に戻り、素地補正が完了する。調整(裏面)へ。

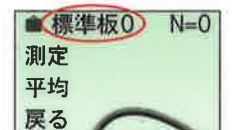


2.調整

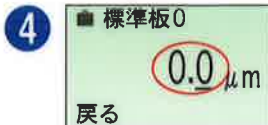


初期画面で[→]キーを押し、「調整」にカーソルを合わせ[Enter]キーを押す。

2 「標準板0」と表示される。素地を5回程度測定する。



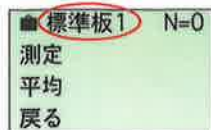
3 5回程度測定したら[Enter]キーを押す。



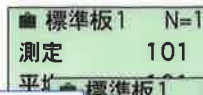
素地の厚さ「0.0μm」が表示されていることを確認し、[Enter]。



5 「標準板1」と表示される。使用する4枚の中で最も薄い1枚目の標準板を、5回程度測定する。



素地に標準板を重ねて測定する。



測定ミスがあった場合、標準板の厚さに対して著しく外れた値が表示される。[Del]キーを押して測定値を消去し、再度測定する。



6 測定した標準板に記載されている厚さを入力する。

測定後[Enter]キーを押す。



i 前回の入力値が表示されているので、一旦[Del]キーで削除する。



ii 標準板に記載されている厚さをテンキー（下図の赤い囲み部分）で入力し、[Enter]キーを押す。



8 「標準板2」と表示される。2番目に薄い2枚目の標準板の測定と入力を行う。(5～7参照)

9 以降、3枚目、4枚目の測定と入力を繰り返す。4枚目を入力すると、調整が完了し、自動的に初期画面に戻る。